

霧島山(新燃岳)噴火の対応

九州地方整備局

令和7年7月23日(水)

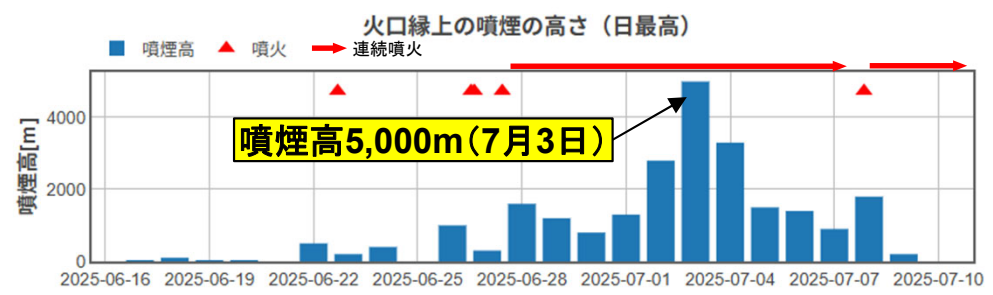
- 6月22日
 - 6月23日 18時30分
 - 7月3日
 - 7月15日
- 平成30年(2018)年以来となる噴火が発生し、その後も噴火活動が継続

噴火警戒レベルを2(火口周辺規制)から3(入山規制)に引き上げ

噴煙高度が今回の噴火活動で最大となる5,000mに達する噴火が発生(降灰量調査)

TEC-FORCEアドバイザーと合同でヘリ調査を実施

■ 火口縁上の噴煙の高さ(日最高)



■ ヘリコプターからの観測(6月30日: 気象庁)



■ 警戒範囲

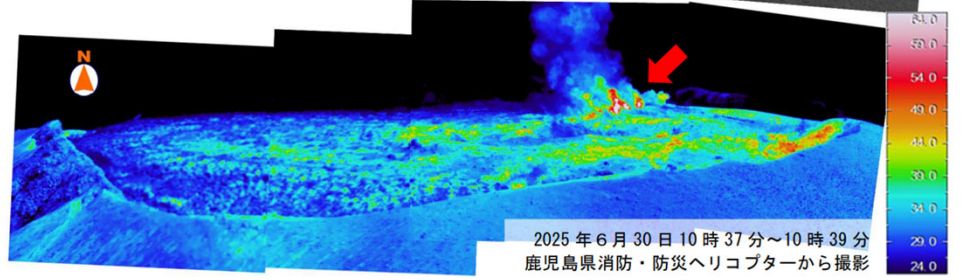
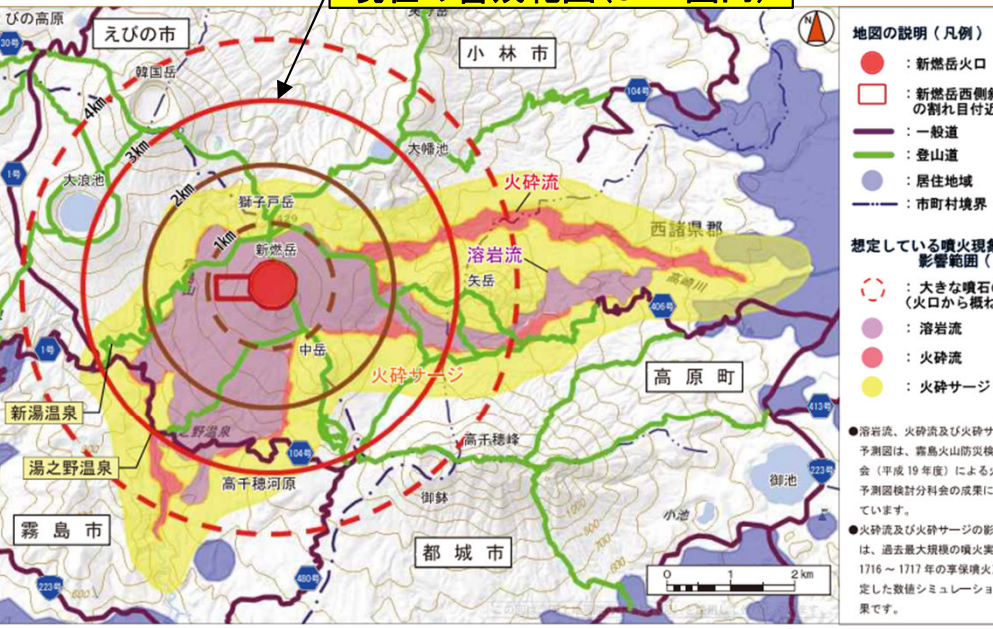
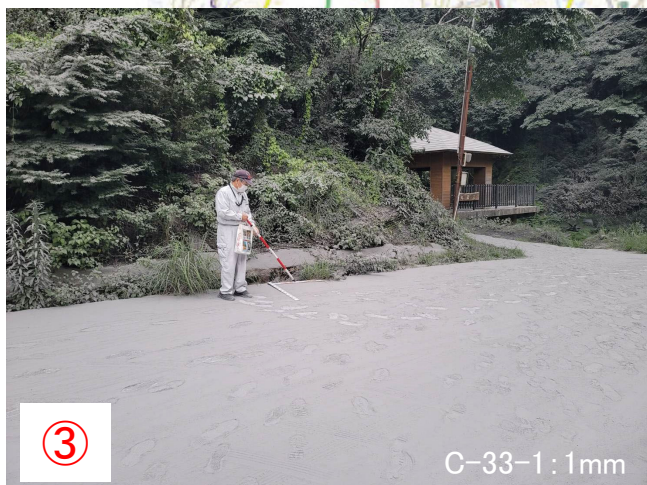


図3 霧島山(新燃岳) 火口内の状況(南側上空から観測)

■ ドローン観測(7月6日: 産総研・JDRONE)



7月3日 降灰量調査



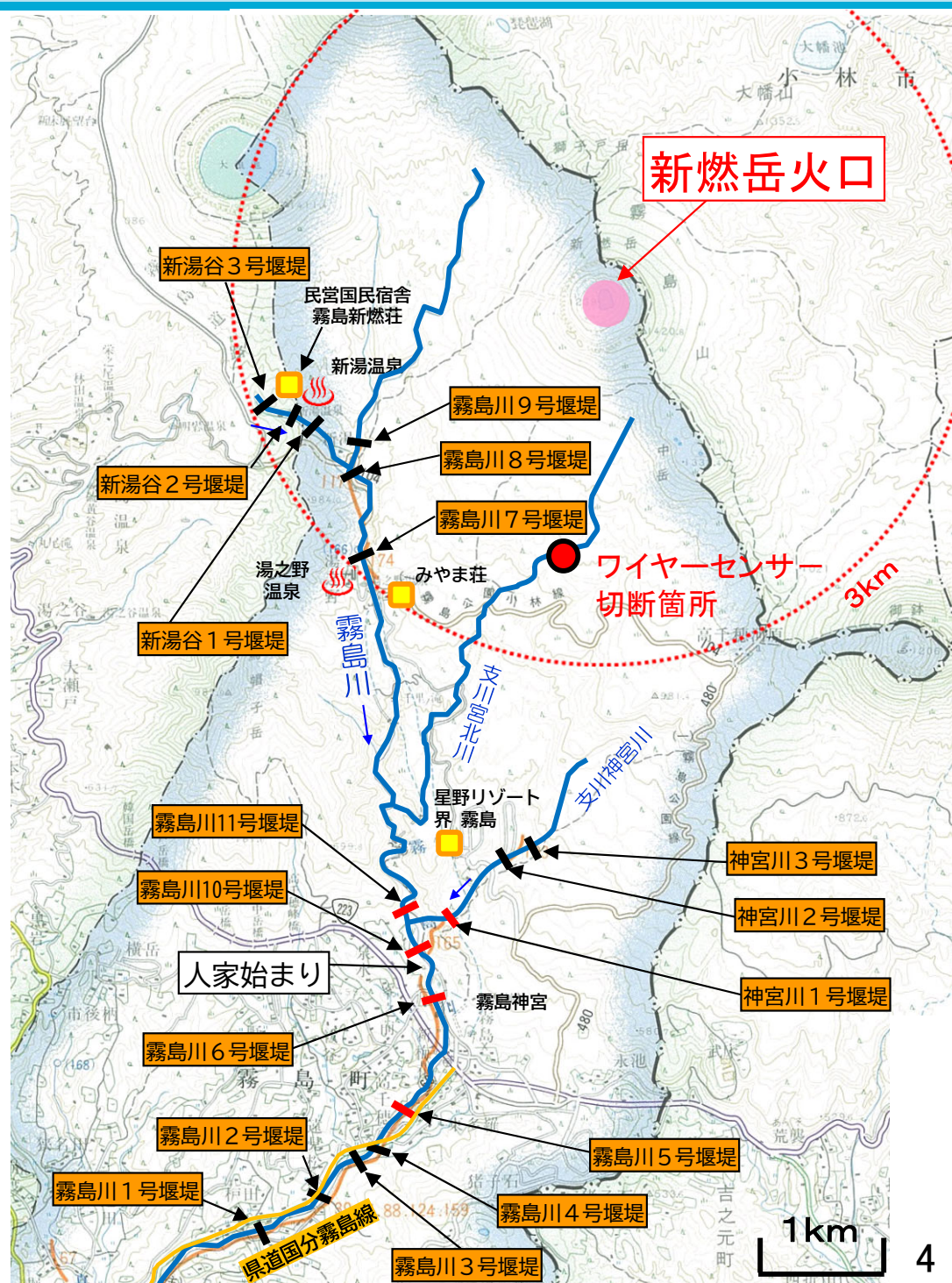
7月9・10日 霧島川支川での土砂の流出

○霧島川11号堰堤

土砂流出前

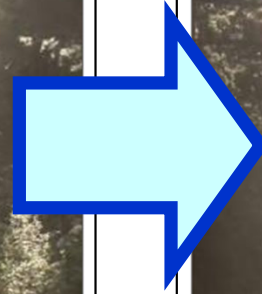


土砂流出後



7月9日 土砂流出発生前後のカメラ画像

1段目ワイヤーセンサ切断 R7.7.9(水)14:35



2段目ワイヤーセンサ切断 R7.7.10(木)10:38





TEC-FORCEアドバイザーによる霧島山噴火調査

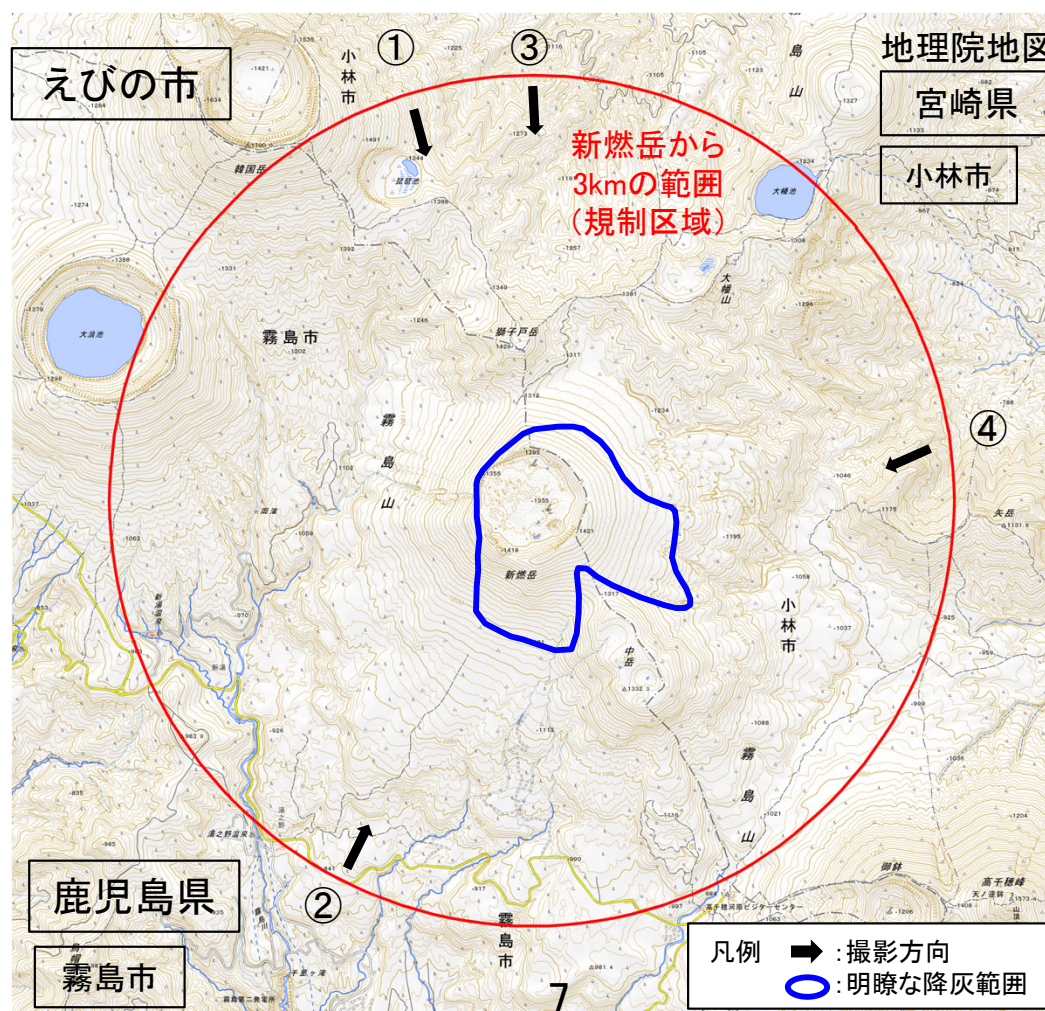
○令和7年7月15日～16日に火口付近の状況を把握するため、九州地方整備局のTEC-FORCEアドバイザー(TEC-Doctor)である鹿児島大学の地頭蘭名誉教授、宮崎大学の清水教授と合同でヘリ調査、及び現地調査を実施。

○TEC-FORCEアドバイザーの所見

- ・細かい火山灰が堆積し浸透能が低下することで、表面流の増加により斜面の侵食が進み、霧島川への土砂流出が発生したものと推察。
- ・今後も、土砂流出が継続する可能性があり、砂防堰堤の除石等により備える必要あり。
- ・火山活動がいつまで継続するか不明のため、今後とも火山灰の堆積、土砂流出の監視が必要。

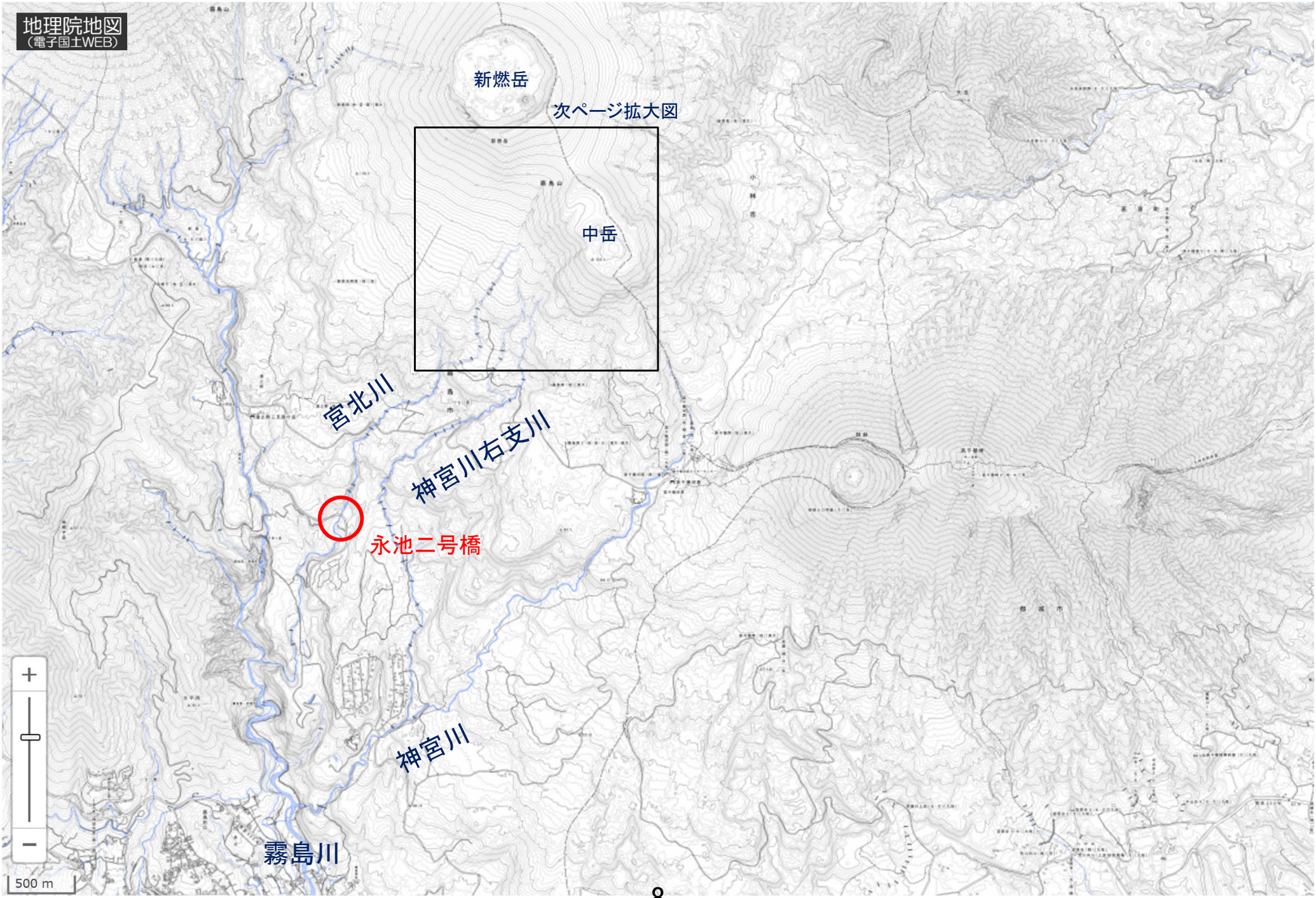


霧島川の様子



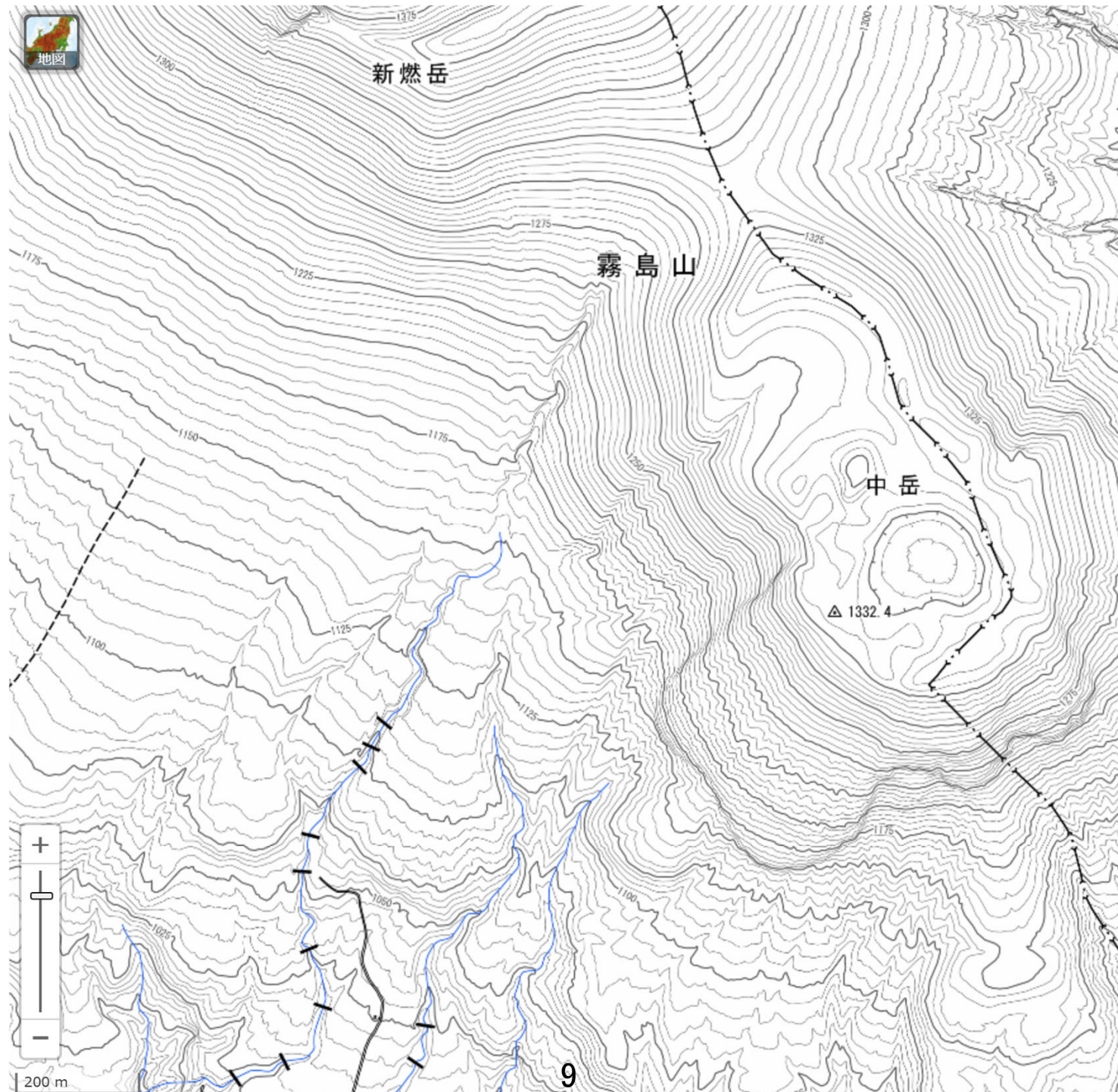
記者ブリーフィングの様子

新燃岳の斜面の状況



新燃岳の斜面の状況(拡大図)

TEC-FORCEアドバイザー
地頭蘭名誉教授(鹿児島大)



- ・斜面の白っぽい火山灰が2025年噴火で堆積した火山灰と思われる。
- ・尾根部分には残っているが、侵食されている斜面が多い。

新燃岳

中岳

2000年より以前の
河川争奪？

次ページ拡大図



宮北川

神宮川右支川

※SIP資料に地頭蘭名誉教授
(鹿児島大)にて加筆

新燃岳の斜面の状況(拡大図)

TEC-FORCEアドバイザー
地頭蘭名誉教授(鹿児島大)

・斜面の白っぽい火山灰が2025年噴火で堆積した火山灰と思われる。

・土砂移動痕跡の新鮮さからみて、最近(7月9, 10日等)の降雨によると思われる。
・2011年噴火(?)で堆積していた軽石も移動している。

・標高差が分かりませんが、再び、神宮川右支川への土砂移動の可能性について、上空からの監視が必要と思われる。

神宮川右支川

宮北川

※SIP資料に地頭蘭名誉教授(鹿児島大)にて加筆



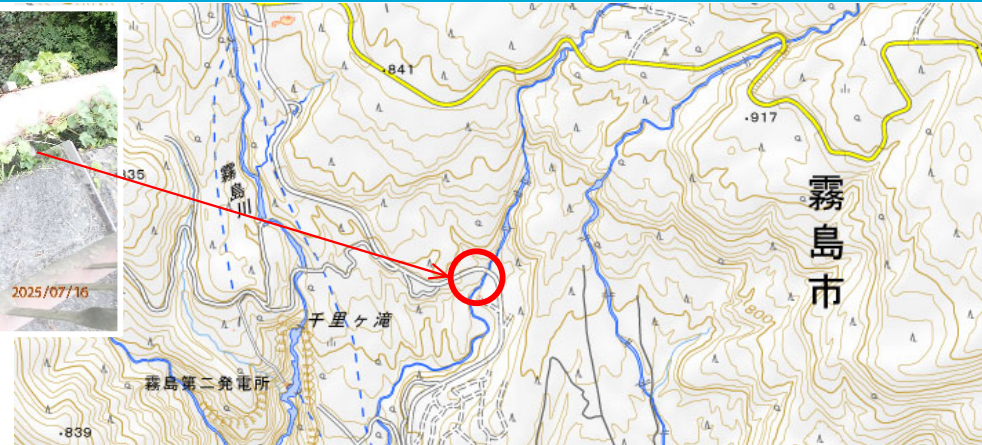
- ・縦侵食が進むと溪岸崩壊が起こり、生産土砂量が一気に増加して下流への土石流の恐れが高まる。
- ・火山活動に伴う降灰状況と侵食状況の上空からの監視が重要

※SIP資料に地頭蘭名誉教授
(鹿児島大)にて加筆

宮北川の状況(永池二号橋周辺)

TEC-FORCEアドバイザー
地頭蘭名誉教授(鹿児島大)

- ・上流側の溪岸の樹木が倒れていた。
- ・橋の上流側の温泉配管？が被災していた。流木等が跳ね上がった？
- ・下流側の複断面の高水敷に土砂や流木が堆積していた。
- ・河川断面、縦断勾配からの検討が必要ですが、**ここは土石流が通過したと思います。**



令和7年6月22日からの霧島山(新燃岳)の火山噴火に伴う土砂災害に対して 災害関連緊急砂防事業を実施し人家集落等を守ります

国土交通省砂防部
令和7年7月18日

実施主体: 鹿児島県

事業箇所: きりしまがわ
霧島川
鹿児島県霧島市霧島田口 地内
事業費: 約3.5億円 ※応急対策分のみ
保全対象: 人家200戸以上
県道国分霧島線(緊急輸送道路)等
対策内容: 砂防堰堤の緊急除石 約6万 m^3

